

平成 29 年度 シラバス (船舶運用 A)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科 (科目)	水産 (船舶運用 A)	単位数	3 単位のうち 2 単位	学年 (コース)	2 学年 (海洋技術コース)
使用教科書	船舶運用 (海文堂出版会社 発行)				
副教材等	四級海技士 (航海) 800 題 問題と解答				

1 学習目標

船舶を安全かつ適切に航海するために必要な知識と技術を習得させ、実際に漁業生産など海上業務に活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

船舶職員 (乗組員) として基本的な知識と技術が必要なことから  
 ①船体の構造を理解し、強度にどのように関連しているか理解する。  
 ②船舶に搭載されている各設備について、運用する。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	船舶の意義 漁船の意義	役割、種類 漁船の定義	船舶の役割について理解させる。 漁船の定義、従業制限について理解させる。	12	中間、期末考査、授業の取り組み状況を見て評価します。
5	船体構造	各部の名称及び構造、 強さ、主要寸法、トン数	船体各部の名称、構造について理解させる。 船体の強さ、主要寸法、トン数について理解する。	1	
6	中間考査 操船・機関・通信設備	舵、主機関、 軸系とプロペラ、無線通信設備	船舶の各設備 (舵、主機関、軸径、プロペラなど) について理解させる。	11	
7	期末考査			1	
9	係船・荷役設備	錨、錨鎖、ウインドラスと付属具	錨、錨鎖、ウインドラスと付属具について理解させる。	12	

9	(30日乗船実習)	デリック装置	デリック装置の名称について理解する。	11	期末考査、授業の取り組み状況を見て評価します。
10	船用品	漁船の荷役設備	ロープ類や滑車及びテークルについて理解させる。		
11	安全・衛生設備	ロープ類、滑車及びテークル	救命艇及び救助艇、救命筏、その他の救命器具について理解させる。		
12	期末考査	救命艇及び救助艇、救命筏、救命器具、信号			
1	漁業設備	消防、防排水設備	遠洋底引き網、機船、巻き網漁船、海外巻き網漁船について理解させる。	14	学年末考査、レポート、授業の取り組み状況を見て評価します。
2		通風及び採光設備			
3	冷凍・冷蔵設備	設備	冷凍と凍結、冷凍装置について理解させる。	1	
	学年末考査				

計 64 時間 (55 分授業)

#### 4 課題・提出物等

- 授業で配布したプリント及び課題
- 長期休業中の課題
- ノート

#### 5 評価基準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
船舶の運用に関心を持ち、学習を通して意欲的に知ろうとしている。	船舶の状態などから、的確な操船方法を判断することができ、今後の変化が予測できる。	非常事態が発生したときにその時の状況に応じた素早い対応ができる。	船舶を安全かつ適切に運航させるために必要な基礎知識を十分理解できる。
以上の観点を踏まえ <input type="checkbox"/> 授業への取組状況（授業態度、出席状況、発表、学習参加状況など） <input type="checkbox"/> ノート、課題等の提出物 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期考査 <input type="checkbox"/> 自己評価			
などから総合的に判断します。			

#### 6 担当者から一言

漁船を中心にした船舶の概要と各種設備、船務、操船、船内の安全と衛生及び船員に関する法規等、船舶を安全かつ適切に運用するたえに必要な知識と技術を習得する科目です。学習を通じて、船舶を適切に運用する知識や技術を身につけましょう。

(担当：新井 清久)